

## 令和6年度第1回三次市総合教育会議

- 1 日 時 令和7年3月21日（金）  
開会 16時00分  
閉会 17時10分
- 2 会 場 三次市役所本館3階 防災会議室
- 3 出席構成員  
市 長 福岡 誠 志  
教 育 長 迫 田 隆 範  
教 育 委 員 小根森 直 子  
教 育 委 員 井 岡 直 美  
教 育 委 員 藤 井 皇治郎
- 4 出席職員等  
(教育委員会)  
教 育 部 長 宮 脇 有 子  
教 育 部 次 長 豊 田 庄 吾  
学 校 教 育 課 長 藤 本 裕佳里  
社 会 教 育 課 長 山 西 正 晃  
教 育 企 画 係 長 今 井 雅 英  
教 育 企 画 課 主 事 平 奈 菜 巴  
教 育 企 画 課 専 門 員 曲 田 憲 司  
(事務局)  
経 営 企 画 部 長 笹 岡 潔 史  
企 画 調 整 課 長 中 村 徳 子  
企 画 調 整 課 係 長 加 藤 泰  
企 画 調 整 課 主 任 歳 秀 隆 星
- 5 協議事項
  - ・「三次市立小中学校のあり方に関する基本方針（案）」について
  - ・「三次市部活動の地域展開に係る基本方針（案）」について

(事務局)

開会に先立ち、総合教育会議は原則公開とされているため、公開により行う。

それではただいまから、令和6年度第1回三次市総合教育会議を開会する。

総合教育会議は、市長、教育長及び教育委員で構成される。本日は、深水委員が欠席となっている。

開会にあたり、福岡市長から挨拶を申し上げる。

(福岡市長)

本日の総合教育会議に出席いただきお礼申し上げます。

また、迫田教育長を中心に、委員の皆様には平素より子どもの学びや教育施策の推進に多大な尽力をいただき重ねてお礼申し上げます。

さて、3月議会において執行部が提案した議案すべてが原案通り可決され、現在、新年度の準備を進めている。

私も本日、酒河小学校の卒業式に出席し、新たな年度の到来を感じるとともに、子どもたちの学びの環境は今後、さらに重要な時期を迎えてきていると実感したところである。

今年度は、教育大綱と教育振興基本計画を一体的に策定した「みよし学びの共創プラン」がスタートした。また、昨年12月には、豊田教育次長を中心に教育政策研究チームを発足し、「未来を創る当事者」を育てるひとつづくりを、強力・着実に進めていく体制を構築したところであり、来年度は、中山間地域の教育のあり方や未来を育む学びの改革を実現するための調査研究に取り組むこととしている。

現在、改築中の三次小学校については、令和7年9月の供用開始に向けて、工事を進めているところである。また、十日市小中学校の改築についても来年度から基本設計及び実施設計に着手するなど、子どもたちの安全・安心、あるいは学びを確保できる環境整備を進めているところである。

本日は「三次市立小中学校のあり方に関する基本方針（案）」と「三次市部活動の地域展開に係る基本方針（案）」を協議事項に挙げている。これからの学校のあり方や部活動の地域展開について、限られた時間ではあるが委員の皆様と意見交換をさせていただきたいと考えているので、よろしく願い申し上げます。

(事務局)

それでは協議事項に移る。ここからの進行は議長である市長にお願いする。

(福岡市長)

それでは、協議事項の「三次市立小中学校のあり方に関する基本方針（案）」

について、教育委員会より説明をお願いします。

(教育委員会)

「三次市立小中学校のあり方に関する基本方針（案）」について説明

(福岡市長)

まず、私の方から、「三次市立小中学校のあり方に関する基本方針（案）」についての考えを申し上げます。

人口減少や少子高齢化、グローバル社会の進展など、社会情勢や学校を取り巻く環境は大きく変わってきており、これまで以上に市長部局と教育委員会との連携は必要不可欠だと感じている。

総合計画においても「教育」をまちづくりの取組の柱の一つとして設定し、子どもの未来を応援する取組を進めている。

小中学校の老朽化や急激な児童生徒数の減少を鑑みると、「未来を創る当事者」を育てる環境づくりは喫緊の課題であると認識している。

未来を担う子どもたちに豊かな教育環境を保障するという観点からも、一定の学校規模は必要であると考えており、学校の再配置は避けては通れないものと認識している。また、児童生徒の多様な希望に応じた「小規模特認校」や「学びの多様化学校」の導入を含めて、学校単位だけではなく、市全体を俯瞰した上で学校のあり方や適正な配置を進めていきたいと考えている。

冒頭に申し上げた通り、社会情勢が変化していく中で、学校と地域のあり方について、私たち一人ひとりが自分事として捉え、三次市の教育のあり方を真剣に考える時期に突入したと思っている。

学校の再配置に当たっては、通学環境の整備や学校跡地の利活用など、様々な課題が浮かび上がっており、人口減少や少子高齢化の進行が想定される中で、持続可能な地域づくりを進めていくに当たっては、学校と地域を切り離して考えることはできないことから、全庁的な課題として取り組む必要があると考えている。引き続き、教育委員会と連携を密にしながら取り組んでいく。

また、基本方針（案）について、市民に知ってもらうことが大切だと思っており、我々もできる限りの機会を通じて、地域の方々や関係者の方とキャッチボールをしていきたいと思っている。

それでは、続いて教育長のご意見を伺いたい。

(迫田教育長)

今年度から「みよし学びの共創プラン」をスタートしたところだが、このプランの大きな趣旨は、社会総がかりで子どもを育てていくということ、そして三次

市らしい取組を通して、「未来を創る当事者」を育てるということ、具体的な施策を示して、これからの5年間で具現化を図るものである。

このプランの具現化のためには、本市のすべての子どもがどこに住んでいても、「学校へ行きたい」「楽しい」「もっと学びたい」とワクワクするような魅力的な教育環境を、市全体を俯瞰して整備することが必要である。

いわゆる学校のあり方や学校の再配置については、本市においては、平成16年の市町村合併以来、各校区の保護者や地域の関係者などで協議を行っていたと認識をしている。令和4年には、「三次市立小・中学校の規模及び配置の適正化について〈基本方針〉」を策定し、完全複式の小学校の保護者や地域の方との協議を継続的かつ計画的に重ねてきた。さらに令和5年には、「みよし学びの共創プラン」策定に係るアンケート調査を市内の中学生、高校1年生、そして保護者、市民を対象に実施した。また、令和6年10月には、魅力ある学校づくりのためのアンケート調査を市内の小学校3年生以上の児童及び小中学校の保護者を対象に実施し、それぞれの思いなどを把握してきたところである。

これらのアンケートの調査からわかったことについて、まず、1つ目は、一定の人数がいる環境が望ましいという意見が小中高年生、保護者とも多いということである。そして、2つ目は中学生になると特に友達との繋がりを求めるということ、3つ目は、学校に行きたくないと思うことがある生徒が相当数いるということがわかった。また、保護者アンケートからは、通学区域の自由化制度は多くの保護者に支持をされているということ、中高年生や保護者の地域行事への参加率が比較的高いということもわかった。

また、今年度行ったアンケートでは小学生は友達と過ごす時間が楽しいと回答する一方で、一部には授業について悩んでいる子どももいるということもわかった。そして、保護者は教育環境の整備について、学校適正配置を最も重視していることもわかった。

少子化の急速な進行あるいは社会状況の急激な変化が続く中でも、これまで継続的に行っていた協議や具体的なアンケート調査の結果から明らかになったことを踏まえて、今、学んでいる子どもたちやこれから就学する子どもたちすべてに対して、魅力ある教育環境の具体的な整備を進めることは喫緊の課題だと捉えている。

現在、策定委員会でまとめていただいた素案を踏まえた具体的な再配置計画を示しているが、これは学校設置者である教育委員会が責任を持って策定するということから、今回、再配置の具体的なスケジュールもあわせて基本方針としたいと考えている。

市長も述べられたが、この取組を進めるに当たっては、保護者や地域の方々への丁寧な説明、そして意見交換が必要であり、これまでも市民説明会や関係団体

等に対して様々な機会をとらえて、素案について説明し、具体的な取組についても意見交換等を行ってきている。

この取組は、教育委員会だけで進められるものではないと私も考えており、全市をあげて部局横断での一体的な推進が不可欠であるということは、私も市長と同意見である。市長をはじめ、市の各部との協働体制の構築は必須であるということを、最後に申し添えておく。

(福岡市長)

それでは、他の委員の皆様からもコメントをいただきたい。

(小根森委員)

三次市小中学校のあり方に関する基本方針(案)について、はじめに三次市の熱い思いが書かれており、大変共感を覚えた。三次市の全ての子どもにとって、「学校へ行きたい」「楽しい」「もっと学びたい」とワクワクする学びの場や居場所となる学校教育を実現することは最優先の課題であるとあるが、基本計画を策定した皆さんの熱い思いを感じた。

また、学校単体としての規模の適正化ではなく、三次市全体を俯瞰した学校の再配置は、将来を見据えた大切な考え方だと思う。適正に配置されたうえで、環境を整えていただき、今回、発足した教育政策研究チームと一緒に三次市ならではの新しい教育を考えていこうということに賛同する。

パブリックコメントには、市民からたくさん意見をいただいている。意見を見て思ったのは、学校の再配置に関して大切なのは、まずは教育の効果、2つ目は、その土地に合っているかどうか、そして3つ目は、やはり市民の理解だと思う。パブリックコメントでいただいたご意見の中には、まだ市民の理解が深まっていないのではないかという意見がたくさんあったように思う。

しかし、私たちから見れば、校長会、PTA総会などで説明を重ねている。ただ、市民に知ってもらうことが大事なので、これからもしっかりと広報していただいて、市民の皆さんに理解してもらうことが大事だと思う。

また、「小規模特認校」や「学びの多様化学校」について、新しい学校のあり方としてしっかり取り組んでいただきたい。小規模特認校では、小規模学校ならではのよさを活かした、誰もがワクワクするような取組としていただきたい。学びの多様化学校では、いろいろな子どもたちが誰1人取り残されずきちんと学べるよう取り組んでいただきたい。

新しい学校のあり方について、市民へしっかりと周知していただきたい。

(井岡委員)

パブリックコメントについて、たくさんの意見があった。説明を何回もしているとは思いますが、まだまだご理解をいただけない方もいらっしゃると感じた。教育委員会としては、できる限りの説明機会を確保していただきたい。

私もこの素案を初めから見ており、本当によくできていると思っている。大変賛同している。

基本方針(案)を市民に理解いただくため、これからも説明をされると思うが、保護者の中には、早く統合した方がいいという考え方の方もいる。一番は市民に対して教育委員会だけではなく、市として会合やイベント等の様々な機会を通して説明を行ってもらいたい。やはり一番心配しているのは地域の皆さんだと思うので、明確な説明を尽くしていただきたい。

それから子どもたちの「楽しい」「もっと学びたい」を実現させるためには、やはり今こそ、市内全体を俯瞰したような学校の再配置を進めるべきだと思う。社会情勢の急激な変化を踏まえると、ひと昔前のままで取り組むべきではないと強く思っている。そういった意味でも学びの選択肢として、「小規模特認校」や「学びの多様化学校」について、しっかり進めていただきたい。

また、三次市は特色ある教育を行っている近隣の市町の方々からお話をいただくこともあり、うれしく思っている。グローバル化の進展に伴い、子どもたちは将来、自分とは異なる歴史等を持つ人と関わる可能性があり、多文化を尊重する態度を身につけることが重要である。そのためには、子どもたち自身が地域学習や地域体験を通して地域への愛着や誇りを育てることが重要である。

学校の再配置により地域と学校の関係が希薄化しないかなど、様々な不安はあるが、市全体として学校の再配置を進めていくことを示し、説明していく必要があると思う。

(藤井委員)

人口減少、少子高齢化の進行は、三次市に限らず全国で以前から問題視されている。各部署において様々な手立てをされている中で、教育現場と一緒にあって、様々な施策を講じられていると思う。その中で、三次市においては、様々な形で特徴のある子どもたちに、漏れなく教育が行き届く施策を展開されている。これらは少しずつ成果が出て、次の新たな施策に繋がっていくと思うので、今後も再編や統合について丁寧な説明を続けていただきたい。

(福岡市長)

「三次市立小中学校のあり方に関する基本方針(案)」について、委員の皆さんには、概ねご理解いただいていると捉えた。

様々な指摘をいただいたが、やはり一番大切なのは市民に対する説明であると認識しており、時間は限られているが、教育委員会と共にこれからしっかりと市民と意見交換をしていき、着実に取り組んでいきたい。

それでは、「三次市立小中学校のあり方に関する基本方針（案）」については、終了し、続いて「三次市部活動の地域展開に係る基本方針（案）」について、教育委員会から説明をお願いします。

（教育委員会）

「三次市部活動の地域展開に係る基本方針（案）」について説明

（福岡市長）

それでは、「三次市部活動の地域展開に係る基本方針（案）」について、まず、私の意見を述べさせていただきます。

中学校の部活動の状況について、市内の中規模学校においては、ある程度、部活動の選択肢はあると思うが、それ以外の学校においては、部活動の選択肢が限られている状況にあると認識している。子どもたちの「やりたい」「やってみたい」という思いを率直に受けとめ、子どもたちの可能性を伸ばす取組は、本市としても非常に重要だと捉えている。その中で、地域の取組を見てみると、先ほど説明があったように、部活動以外の受け皿が種目、あるいは地域によっては整いつつある。このタイミングで基本方針を示し、令和9年4月からの部活動の地域展開につなげていくことが大切だと感じている。

また、これまで以上に取り組まなければいけない課題は官民連携だと思っている。学校と行政、民間がしっかりと連携することが今後さらに求められると思う。部活動はこれまで学校教育の一環として取り組まれていたが、今後は教育委員会だけではなく、市長部局ともしっかりと連携し、地域展開を進めていくことが重要だと考えている。部活動の地域展開についても、教育委員会とさらに連携を深めて進めていくべきと思っている。

一方で、文部科学省は、部活動の地域展開について、具体的な方針をまだ示し切れていないと感じる。特に予算措置については、具体的な提言がない状況であり、子どもたちに関わる大切な活動であるため、文部科学省も一定程度、踏み込んだ計画もしくは予算措置を示すべきだと感じている。そうした課題については、市長会等を通じて、国に対してしっかりと地域の実情を訴えていきたいと思う。都市部には部活動の受け皿がたくさんあると思うが、地方は都市部と比べて受け皿が少なく、こうしたことにより都市部と地方の格差が広がるという懸念も感じる。しっかりと国も関与していただき、部活動の地域展開を進めるとともに、課題解決につなげていきたいと考えている。

それでは、続いて教育長の意見を伺いたい。

(迫田教育長)

部活動の地域展開については、令和3年から検討委員会を設置し、多面的な協議を進めてきた。単に部活動をそのまま地域へ移行するものではない。

まず、地域全体で部活動を展開していくことは、スポーツや文化によるまちの活性化のみならず、様々な世代が繋がる地域づくりが期待できると思っている。

また、今回策定した基本方針(案)は、いわゆる理念的な部分が多い一方で、開始時期を明示することで、共通認識を持つということにつなげていきたい。

そして、令和3年からの取組で本市のよかった点は、教育委員会だけではなく、地域共創部と連携して取り組めたことである。コーディネーターを配置して、一緒にやろうということが前に進むエネルギーになったと思っている。地域での活動や市民ホールでの活動などへの意識づけができたことは非常によかったと思っている。

課題は山積しているが、部局横断型の取組は本当に前に進むためのエネルギーになると実感している。

(福岡市長)

それでは、他の委員の皆様からもコメントをいただきたい。

(小根森委員)

先ほど教育長が述べられた通り、部活動の地域展開によって様々な世代が繋がるということは素晴らしいことだと思う。

その中でまずは、子どもたちに費用負担がないかという点は気がかりである。

もう一つは、子どもたちは今まで教育活動の一環として学校で守られていたが、部活動の地域展開に当たっては、コンプライアンスなど、指導者の研修をしっかり行っていただきたい。

(井岡委員)

子どもたちがやりたいことをできない状況は残念であり、子どもたちがやりたいことができる環境にしていく必要があると思っている。そのために子どもたちがやりたいスポーツや文化活動を選択できる機会を、生まれた地域に関係なく確保することが本当に大切だと思う。

基本方針(案)を見る限り、今後、保護者に負担がかかることは明らかであることから、今後の説明の中で、負担軽減に関するアイデアを示すことで保護者の方々もより理解いただけるのではないかと思う。保護者へ課題を丸投げしてし

でもどうすればいいのかわからない。それで一番困るのは子どもである。

指導者の確保など様々な課題が山積しているが、教育委員会だけで進めていくことは困難であるため、市長が先ほど述べられた通り、学校や保護者、地域の各種団体、民間企業などの多様な主体が連携し、協力していくことは不可欠である。そして、組織横断的な対応は大切であるため、相互に情報共有を行いながら、一体となって取り組んでいくことが最重要だと考える。

(藤井委員)

地域移行から地域展開への言葉の修正について、心に響くものがあり、いい表現だと思った。地域展開に関して、先ほど市長が述べられた通り、都市部に関しては地域展開がしやすいと思われるが、三次市のような中山間地域では公共交通機関が限られており、指導者や活動場所は確保できても、子どもたちや保護者に一定の負担がかかる部分も考えられることから、予算づけなどの何かの措置についても、ぜひ、国へ本市の現状を含めて要望等の活動を行っていただきたい。

(福岡市長)

「三次市部活動の地域展開に係る基本方針(案)」についても、概ねご理解いただいていると捉えている。

一方で、費用面や指導者育成、さらなる市長部局と教育委員会の連携強化などの課題についても指摘をいただいた。

令和9年4月に向けて、今、ご指摘いただいた課題も踏まえながら、今後の部活動の地域展開に係る基本方針を進めていきたいと思う。

本日、ご議論いただいた「三次市立小中学校のあり方に関する基本方針(案)」と「三次市部活動の地域展開に係る基本方針(案)」について、委員の皆様には、今後も様々な角度からご意見をいただくとともに、総合教育会議などにおいて、情報共有をさせていただきながら、それぞれの項目について「自分ごと」として取り組む人を1人でも多く増やしていきたいと思う。

委員の皆様の引き続きのご支援、ご協力をお願い申し上げて、進行を事務局にお返しする。

(事務局)

以上をもって、令和6年度第1回三次市総合教育会議を終了する。